

報 告 書

平成 22 年 2 月

岡崎市行財政調査会

はじめに

岡崎市行財政調査会は、平成 20 年 1 月の会議以来、先進地視察を含む延べ 8 回の会議を行い行財政改革の内容について検討してきました。

調査会の論議の中では、平成 15 年 3 月に策定した「新岡崎市行政改革大綱（ニューステージプラン）」に基づき策定された、行政改革推進計画（集中改革プラン）の実施、改善、取組み実績、並びに平成 22 年 3 月に策定される「新岡崎市行財政改革大綱」について意見が出されました。また、岡崎市が実施している事務事業評価を外部の視点から再度チェックするため、調査会に外部評価専門部会を設置し、取組みを行ってまいりました。

岡崎市は行政の普遍的課題として、早くから行財政改革に取り組んでおり、岡崎市行財政調査会も昭和 57 年 8 月に設置されて以来、市民の意見を取り入れてきたこと、また、平成 15 年の事務事業評価の導入、平成 19 年の事務事業評価の外部評価制度の導入等行財政改革への不断の努力を続けていることについては評価します。

しかしながら、昨年秋以降の「世界金融危機」と戦後最大の「世界同時不況」以降、依然として厳しい雇用情勢や物価の下押し圧力によるデフレ懸念、さらには、世界の景気後退の長期化の恐れなど、我が国の経済を下振れさせるリスクも存在しています。今後、今まで以上に事業の必要性、緊急性等を精査し、事業の優先順位付けをする等により事業の選択と財源の有効活用に取り組まなければなりません。今後の行財政運営にあたっては、事務事業評価システム等を活用した実施手法の見直しや合理化を進め、成果に重点を置いた効率的な取組みが求められます。

ここに、市民から見た率直な意見を集約した報告書を提出するので、その趣旨を十分に認識していただき、一層の行財政改革を推進されるよう要望します。

審 議 経 過

	会議	議題	審議内容
1	20 年第 1 回 H20.2.4	岡崎市総合計画について	岡崎市の総合計画について説明を受けた。
		集中改革プランの状況について	集中改革プランの改訂及びその他内容について意見を述べた。
		外部評価について	外部評価の取り組み結果、今後の改善点に対して意見を述べた。
2	20 年第 2 回 H20.5.21	集中改革プランの取り組み実績について	取り組み実績の説明を受け、個々の項目について意見を述べた。
		外部評価専門部会について	外部評価専門部会員を 9 名 3 班体制とし、松井委員を専門部会長とした。
外部評価専門部会	第 1 回外部評価専門部会 H20.7.3	外部評価実施方法について	外部評価対象業務の選定基準を定め 48 業務を対象とすることに決定した。 3 人 1 グループで業務活動を評価することに決定した。
		外部評価シートについて	外部評価表の項目に修正を加え、記入方法について確認を行った。
	第 2 ～ 4 回外部評価専門部会 H20.7.17～8.5	外部評価ヒアリング	48 業務を 3 日に分け、評価表の記入内容を基にヒアリングを行った。
	第 5 回外部評価専門部会 H20.8.29	外部評価のまとめについて	作成された外部評価報告書原稿の内容修正及び確認を行った。
3	20 年第 3 回 H20.10.3	平成 20 年度外部評価報告書について	外部評価報告書の内容を最終調整し承認をした。外部評価についての感想と、今後の取り組み方法について意見を述べた。
		岡崎市行財政調査会視察について	隔年で行っている先進都市視察先を春日井市における外部評価事例とした。
		岡崎市の行政改革の取組状況及び岡崎市の行政水準について	宇都宮市が調査を行った中核市行政水準調査結果に基づき岡崎市の行政水準等についての説明を受けた。
		部の経営方針について	平成 20 年度の部の経営方針について説明を受けた。
4	20 年第 4 回 H20.11.20	先進都市視察（春日井市）	外部評価の実施状況について意見交換等を行った。
5	21 年第 1 回 H21.2.23	外部評価の取組みに ついて	担当課の外部評価の取り組み結果、今後の改善点に対して意見を述べた。

		集中改革プラン及び行政改革大綱について	集中改革プランの改訂及びその他内容について意見を述べた。岡崎市行財政改革大綱策定方針（案）について意見を述べた。
		新地方公会計制度について	新地方公会計制度について説明を受け意見を述べた。
6	21年第2回 H21.6.11	岡崎市行財政改革大綱（素案）について	岡崎市行財政改革大綱（素案）について意見を述べた。
		集中改革プランの取組み実績について	集中改革プランの取組み実績の説明を受け、個々の項目について意見を述べた。
		外部評価について	外部評価専門部会員を8名2班体制とし、松井委員を専門部会長とした。
外部評価専門部会	第1回外部評価専門部会 H21.7.21	外部評価実施方法について	外部評価対象業務の選定基準を定め32業務を対象とすることに決定した。 4人1グループで業務活動を評価することに決定した。
		外部評価シートについて	外部評価シートの項目に修正を加え、記入方法について確認を行った。
	第2～4回外部評価専門部会 H21.8.4～21	外部評価ヒアリング	32業務を3日に分け、評価表の記入内容を基にヒアリングを行った。
	第5回外部評価専門部会 H21.9.29	外部評価のまとめについて	作成された外部評価報告書原稿の内容修正及び確認を行った。
7	21年第3回 H21.10.15	岡崎市行財政改革大綱（素案）の修正について	岡崎市行財政改革大綱（素案）の修正について意見を述べた。
		外部評価専門部会報告について	外部評価についての感想と、今後の取組方法について意見を述べた。
		岡崎市行財政調査会報告書について	行財政調査会報告書の作成方法について検討を行った。
8	22年第1回 H22.2.1	行財政改革大綱（案）及び岡崎市行財政改革推進計画について	岡崎市行財政改革大綱（案）及び岡崎市行財政改革推進計画の修正について意見を述べた。
		外部評価報告書への取組み状況について	担当課の外部評価の取組み結果、今後の改善点に対して意見を述べた。
		行財政調査会報告書について	2年間の意見を集約させた報告書の内容について精査を行った。

意見内容

1 行政改革推進計画（集中改革プラン）について

- ・ 推進項目のうち、計画未満の項目について原因分析の徹底をし、翌年以降の計画の進行管理をするように努めていただき、また完了項目についてもその後の効果の検証を十分にして、行政改革の質を高めるよう努められたい。
- ・ 推進項目には行政改革の項目と各担当課の重点目標が混在している。明確に仕分けし、市全体の改革の方向性を明確にするよう努められたい。
- ・ 民間委託や指定管理者制度の導入等を図った事業については、今後も継続的にモニタリングを実施するとともに、定期的実施主体の確認、見直しに努められたい。
- ・ 行政改革は組織全体として進むべき方向やあるべき姿を設定した上で価値判断に基づいた政策・事業の取捨選択や優先順位付けを行っていくのが本来であると思われる。そのためには、組織として明確なビジョンを持つことに加えて、個々の職員や職場がそのビジョン達成のための役割を認識し、思いを共有するよう努められたい。
- ・ 景気悪化や政権交代による国政の変更が推進計画に影響を及ぼすことが考えられる。各業務の内容と進捗状況を常時点検し、市民生活に遺漏のない適切な対応がとられるよう努められたい。また、制度的に推進計画が大きく変更、凍結、あるいは廃止となるような業務には十分な説明責任を果たすよう努められたい。
- ・ 広域行政の推進に伴い、消防、救急救命、水資源、環境問題等身近な問題の取り組みを一層充実させ、近隣市町村との連携を強化して、中核都市としてリーダーシップの発揮、役割を果たすよう努められたい。
- ・ 経営感覚に立脚した行政を意識しすぎるあまりに、市民に我慢を強いる行政とならないよう努められたい。
- ・ 今後も極めて厳しい財政状況が予想されるが、質の高い市民サービスを目指すため、最小の経費で最大の効果が得られるよう努められたい。

2 事務事業評価（外部評価も含む）について

- ・ 事務事業評価表の記述について、市民に向けて事業内容を説明しようというものになっておらず、全般的に説明不足であった。外部評価の際に補足資料で補うのではなく、評価表のみで事業内容がわかるものとなるよう努められたい。
- ・ 事務事業評価の評価項目について選択肢の内容や表記等をわかりやすくなるよう

努められたい。

- ・ 評価表の記述や外部評価をきっかけとして改めて日常の業務活動を市民の目線に立って見直し、よりよいものとなるよう改善、工夫を行うよう努められたい。その際、業務活動や上位施策の目的・意図に照らして必要な場合には、他の部課との連携も積極的に図るよう努められたい。
- ・ 事務事業評価の目的が各担当課に浸透していたとは言いがたいと考えられる。コスト削減だけが目的ではないとされているものの、予算配分と関連することで、各課はどうしても評価表の記述を事業実施の自己正当化に用いてしまっている傾向が見てとれた。
- ・ 外部評価の今後のあり方については、事務事業評価の今後のあり方とリンクさせていく必要がある。事務事業評価の目的を職員の気づきや意識改善、市民への説明責任とするのであれば、外部評価も市民からの目線で職員の気付きを促進させることが目的となり、事務事業評価の目的を事業改善やコスト削減とするならば外部評価もそうした視点で踏み込んでいく必要があり、外部評価委員の育成も課題となる。事務事業評価と外部評価が一体となった、長期的な運用・活用についての戦略がとられるよう努められたい。
- ・ 各課の説明に「初めに業務有りき」で出発している印象を受けた。各担当者には安易な継続のための理論武装ではなく、業務をゼロベースから見直し、改善、整理、廃止を考えるよう努められたい。
- ・ 企画、財政課による二次評価については、今後も継続し、来年度以降さらに取り組みを深め事務事業評価全般の精度を高めていただきたい。また、二次評価については外部評価を始める前に書面で提出するスケジュールを組むよう改善に努められたい。
- ・ 市民の視点からの外部評価は問題点の指摘、提言、改善等少なからず行政に寄与するものとする。今後も継続し、実績を積み重ねるよう努められたい。

3 岡崎市の行財政について

- ・ 全体的に業務の適正な執行ということに関心が高く、チャレンジ精神があまり感じられない印象を受けた。今後はこれまでより厳しい行財政運営が求められると思われるが、地方分権型社会に移行していく主体として、職員が能動的かつ従来のやり方にこだわることなくよりよい問題解決の方法を図っていく組織風土の形成に努められたい。

- ・ 限られた財源の下、ヒト・モノ・カネ・情報といった資源の有効活用を図り、地方自治法で定める「最小の費用で最大の効果」をあげることがより求められる。従来の感覚にとらわれない発想で事業の根本からの見直し、整理、廃止を行い、メリハリのある行政運営に努められたい。その上でも、基本計画等のビジョンに基づいて、行政の課題・方向性及びその活動結果を示すこと、行政活動の結果としての財政状況を開示する等の情報公開を進め、市民への説明責任を果たし、広く市民の意見を聴取して適時行財政に反映させることに努められたい。
- ・ 市民協働の取り組みについて、市民の活躍の場を取り入れていく姿勢を今のところ感じられるが、市民主導型の取り組みを今後他市よりも実感できるよう努められたい。

4 その他

- ・ 情報公開の要請が高まる中、行政サイドの情報提供も進んでいる一方、膨大な情報が玉石混交となり必要な情報が判別、消化しきれないものとなっている可能性がある。情報の住み分け、市民への伝達の仕方についての検討及び新たな対応に努められたい。
- ・ 類似のパンフレット等を県、市、関係団体で作成している場合、市独自のものにこだわらずに資源、経費の削減に努められたい。
- ・ 行財政調査会の傍聴に市民が多く参加するよう努められたい。

岡崎市行財政調査会委員名簿

任期 平成 20年 2月 4日 ~ 平成 22年 2月 3日

氏 名	役 職 名 等	備 考	
会 長	服部 良男	岡崎商工会議所副会頭	
会 長 職務代理	松井 寛人	おかざき環境教育フォーラム わか理事長	
	入江 容子	愛知大学准教授	
	笠原 武浩	日本労働組合総連合愛知県 連合会三河中地域協議会代表	~ 平成 20年 11月 19日
	直塚 政之	日本労働組合総連合愛知県 連合会三河中地域協議会代表	平成 20年 11月 20日 ~
	菅原 光男	専門委員（前市民公募委員）	
	杉浦 充子	専門委員（前市民公募委員）	
	杉山 信平	岡崎市社会福祉協議会会長	
	高木 由香里	公認会計士	
	福應 謙一	岡崎市小中学校長会会長	~ 平成 20年 3月 31日
	河村 喜美	岡崎市小中学校長会会長	平成 20年 4月 13日 ~ 平成 21年 3月 31日
	神尾 光伸	岡崎市小中学校長会会長	平成 21年 4月 15日 ~
	平岩 ふみよ	竹の子幼稚園園長	
	福留 つきよ	市民公募委員	
	森 侑一	市民公募委員	